

## 平成28年度 大田区立志茂田小学校 自己評価 報告書

## ○ 本校の概要

志茂田小学校のよさの一つに多角的な目で子どもを見ることができるところがある。本校は、通常の学級の他、言葉の教室（通級）がありサポートルーム拠点校であるため、専門的な視点で児童をみとることができる教員が複数いる。教職員の異動は47%と多く、教員においては、4年以下の経験教員が9名と若手が増加した。一つ一つ確かめ丁寧に進めていかねばならぬところに苦労はあるものの、逆に従来に縛られず、よいと思っことは取り入れていく機会ととらえている。また今年度のOJTを年間研修で位置づけていることで熱心に放課後研修を行う雰囲気が出てきている。次年度5月の移転に向け、今年度中に次年度以降の教育課程につ

## ○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	目標	取組内容	目標に対する成果指標	成果評価	これまでの取組及び今後の改善策	学校関係者記入欄15名 コメント
学力向上	児童・生徒一人ひとりの学ぶ意欲を高め、確かな学力を定着させます。	学習カルテを基に児童・生徒と面談し、一人ひとりの学習のつまずきや学習方法について、指導する。	4:「学力向上のための具体的な取組を実施していた」とアンケートで回答した保護者が80%以上	4	保護者の学校評価アンケートでは、「学力向上のための具体的な取組を実施していた」が89.4%と高い評価を受けている。これは、平日の放課後学習や学習指導員による補習のほか、本校独自に3年以上の土曜補習を実施（教員全体で分担）していることも評価されていると思われる。しかし教員自身の評価では、外国語教員の積極的な活用が十分でなく、表現力を付けさせたいが十分でないこと、授業改善プランを授業に生かすことについてはまだ改善の余地があると思われる。また、保護者は90.8%が「家庭学習をしている」と回答しているが、5年児童は78%（6年児童は97%）であり、親子で差がある。さらに「進んで学習している」は、児童は71.6%と高くない。そこで次年度は、①教員自身が外国語教員に積極的にコミュニケーションをとること、②授業改善プランを授業等ですぐに取り入れること、③スピーチの場や話し合いにより児童の表現力を高めること の3点を推進していく。また保護者や児童に積極的に働きかけることは④家庭学習の定着に向けた取り組みである。新年度は、6月までに「家庭学習のすすめ」を作成し、夏季休業前に配布することで家庭学習の定着を図っていく。	・平日放課後補習や土曜補習を多く実施していることは、大変良いと思う。 ・子供たちは、積極的に発言している。 ・英語は先生方が進め方を工夫すれば子供たちにとっておもしろいと思う。 ・算数は、答えの正解だけでなく、式について説明できるようにしてほしい。 ・学習についていけず差がついている子供も自信をもって取り組める授業の進め方を工夫し、個別指導ができるように。 ・子供たちの集中力のなさ、落ち着いて学習できていない様子がありません。落ち着かない子供に引っ張られているように思える。 ・家庭学習の定着といっても果たして保護者が教えられるかどうか。
		算数・数学到達度をステップ学習チェックシートで児童・生徒、保護者に知らせる。	3:「学力向上のための具体的な取組を実施していた」とアンケートで回答した保護者が70%以上			
		学習指導講師等による算数・数学・英語の補習を実施する。	2:「学力向上のための具体的な取組を実施していた」とアンケートで回答した保護者が50%以上			
		外国語教育指導員を効果的に活用し、外国の方々のコミュニケーション能力の育成を図っている。	1:「学力向上のための具体的な取組を実施していた」とアンケートで回答した保護者が50%未満			
		授業改善推進プランを、授業に生かす。				
		漢字検定を通して、児童自らの課題を克服できるように、具体的な学びの仕方を繰り返し指導することによって、言語事項の基礎を身につける。				
豊かな心を育む	子ども一人ひとりの健全な自己肯定感・自己決定力を高め、未来への希望に満ちた豊かな人間性を育みます。	小中一貫による教育の視点に立った生活指導の充実により、社会のルールや学校のきまりなどを守ろうとする意識を高める。	4:「自分にはよいところがある」とアンケートで回答した児童が80%以上	3	5・6年児童アンケートによると「自分にはよいところがある」と回答したのは、71.2%であった。一方教員自身の評価では、「児童一人一人に励まし等の声をかけた」にばらつきがみられた。また児童アンケートでは、「生活のきまり・学習の決まりを守っている」がそれほど高くない。そこで今後は、①大きな目標を達成するための小さなめあてをもたせ、月一回は、一人一人に努力している態度や成果に対し、褒める機会をもつ。また、②友達から称賛される場を設定したり、異学年からお礼や励ましの声を送ったりして、自信を持たせ自己有用感を高めていく。また③スクールカウンセラーによる5年生の全員面接を、3年生にも実施することで、友達関係の悩みを解決していく場を作っていく、児童が学校で一層楽しく過ごせるようにしていく。	・他学年との交流は、良いことだと思う。 ・子供たちの積極性を見ることが出来る。 ・褒めることは大事、小さなことでもほめて自信をもたせたい。スポーツや絵・音楽でも自信をもたせたい。学校の取組のようにほめることで向上心を育てるのでよいと思う。どの子も自分には、よいところがあると思える元気な子供たちであってほしい。 ・穏やかに成長している。一人一人の子供たちに先生たちが注視している。 ・安心して居るが、他校では学校で騒ぐ子がいることを保護者が聞いて本校もそうなら困ると心配している。 ・一人一人大切にされていないと感じている子が一部だけいる。 ・不登校児童の存在は、どこの学校でも聞く。対処を見つけるのは難しい。 ・学校だけでいじめはダメ等と、心を育てるのは、無理。家庭に大きく関わることだと思う。 ・言葉遣いと挨拶の教育を向上させてほしい。
		道徳教育推進教師を講師とした研修や、国、都及び区の資料を活用した授業等を行う等道徳指導充実のための取組を行う。	3:「自分にはよいところがある」とアンケートで回答した児童が70%以上			
		学校生活調査（メンタルヘルスチェック）の結果よりストレス症状のみられる児童・生徒に対して組織的に対応する。	2:「自分にはよいところがある」とアンケートで回答した児童が50%以上			
		学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見等のための取組を実施する。	3:「自分にはよいところがある」とアンケートで回答した児童が50%未満			
		問題行動・不登校問題等にかかわる児童・生徒に関するケース会議等を実施する。				
		児童一人一人の学期ごとの目標に対し、声をかけたり、メッセージを書いたりして児童を励ましていく。				
体力向上	子ども一人ひとりの身体活動量を増加させて意欲や気力の元となる総合的な体力を育みます。	新体力テストの結果を踏まえ体力向上全体計画を作成し、計画に基づいた体育指導や「一校一取組」運動や「一学級一実践」運動を実施する。	4:「体力向上に努力した」とアンケートで回答した児童が80%以上	3	5・6年児童アンケートによると「体力向上に努力した」が、70.5%だが、6年だけでは、60%（5年は80%）である。体力調査結果を見ると、今年度は特に男子が低い傾向になる。次年度は、改善に伴い、①運動できる場を中学校や近隣施設と連携し、全校を2つに分け、体育朝会を実施するなど、運動できる場や時間の確保に努める。また②オリンピック・パラリンピック教育を推進し、児童・保護者に向けて規則正しい生活習慣の励行や放課後・休日にも体を動かすことを推奨していく。	・元気に学校で運動しているようでよい。全体を通して活発な様子が見られてよい。 ・体育朝会では、全員参加で楽しながら運動していた。 ・小学生駅伝等、同世代の活躍を見せることも子供たちの励みになると思う。 ・ゲームに夢中になっているのが、心配。 ・校庭開放を朝実施したらどうか。 ・学校の体力向上は大切。運動場、プール等、狭くなったり、なくなったりするが、一層工夫してほしい。
		「早寝・早起き・朝ごはん」月間の取組等を通して、児童・生徒や保護者に対し、望ましい生活習慣についての意識啓発を行う。	3:「体力向上に努力した」とアンケートで回答した児童が70%以上			
		給食指導及び教科等における指導を通して、食生活の充実・改善をねらいとした「食育」を推進する。	2:「体力向上に努力した」とアンケートで回答した児童が50%以上			
		体育的行事、部活動、休み時間など様々な機会を通して運動習慣の確立を推進する。	1:「体力向上に努力した」とアンケートで回答した児童が50%未満			
		持久走大会に向けての取組や縄跳びを通して体力向上を図った。				
教育環境向上	教員の指導力向上、施設の整備や講師・支援員の配置などの学校サポート体制の充実に取り組み、学習環境の向上を図ります。	授業公開日の授業評価を、その後の授業改善に生かす。	4:「学習内容が分かる、学習指導を工夫している」とアンケートで回答している児童が80%以上	4	5・6年児童アンケートによると「授業はわかりやすい」が91.2%（5年84%、6年100%）であった。しかし教員自身の評価を見ると ICTの情報機器の活用、自主的な学び合い、学校公開時の評価の活用を改善していく必要がある。次年度は、①教員が全員参加できるような研究会の工夫、②ICT操作および情報モラルの研修会を実施していく。また③各教員が一年間で授業改善できたことを報告する機会をもつことで教員間の学び合いの意識を高めていく。	・教員の工夫がみられる。6年生のアンケート「授業が分かりやすい」のわかりやすさが100%はすばらしい。 ・教員によって努力や未熟さに差がある。授業に楽しさや感性に訴える工夫をしてほしい。他の教員や講師の授業などから、学んでほしい。教員研修は、ぜひ進めてほしい。
		授業改善セミナー等の研修成果を生かし、主任教諭が助言・支援を行う校内研修等を実施しOJTを充実させる。	3:「学習内容が分かる、学習指導を工夫している」とアンケートで回答している児童が70%以上			
		各種研究発表会等の研究・研修の成果を、自身の授業改善に生かす。	2:「学習内容が分かる、学習指導を工夫している」とアンケートで回答している児童が50%以上			
		学力の定着と学ぶ意欲の伸長を目指し、ICT機器を活用した授業を実施する。	4:「学習内容が分かる、学習指導を工夫している」とアンケートで回答している児童が50%未満			
		校内委員会等を確実に実施し、学校における特別支援教育を推進する。				
		自主的に（研究授業以外）学期に一回、校内の他教員の授業観察を行うことで、教員同士で指導法を学び合う。				
家庭・地域の教育力向上	学校・家庭・地域の果たすべき役割や責任を明らかにするとともに相互の連携を深め、地域とともに子どもを育てる仕組みをつくりまします。	教育目標・学校経営方針・学校評価等の基本情報、児童・生徒の活動情報等をホームページ等で公開及び更新することにより、積極的に情報を発信する。	4:「地域との連携を図った教育が推進されている」とアンケートで回答した保護者が80%以上	4	保護者の学校評価アンケートによると「地域との連携を教育活動に生かしている」と回答した保護者は、99%である。本校の特色でもある。①今年度実施したことは、確実に次年度以降も実施できるようにする。	・保護者アンケート「地域との連携を教育活動に生かしている」の生かしているが99%は、素晴らしい。学校・家庭・地域の連携ができていると思う。地域の方には、お世話になり感謝している。 ・さらに地域の人材発掘をし、遠慮なく活用してほしい。
		地域教育連絡協議会において、児童・生徒の変容等の具体的な資料を作成して、評価に必要な学校の情報を適切に提供し、適正な評価を受けるよう努める。	3:「地域との連携を図った教育が推進されている」とアンケートで回答した保護者が70%以上			
		学校支援地域本部と連携するなどして、地域力を生かした特色ある教育活動を実施する。	2:「地域との連携を図った教育が推進されている」とアンケートで回答した保護者が50%以上			
		学校支援地域本部との連携により、親子のふれあいを深める活動を実施する。	1:「地域との連携を図った教育が推進されている」とアンケートで回答した保護者が50%未満			

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめている。

○学校関係者評価の「評価」は、A:自己評価は適切である B:自己評価はおおむね適切である C:自己評価は適切ではない D:評価は不可能である の4点について、評価した人数を記載する。